

分野④：環境・都市計画・都市基盤整備

施策 6：公共交通の利便性の向上

施策目標

利用者ニーズや地域特性に応じた持続可能な公共交通網が整備され、市民生活の基盤として安全・安心な移動手段が確保されています。

現状・課題

高齢化の進展及び交通安全意識の高まりに伴い、運転免許を返納する高齢者の数が増加しており、生活交通手段の確保として今後公共交通がますます重要となってきます。

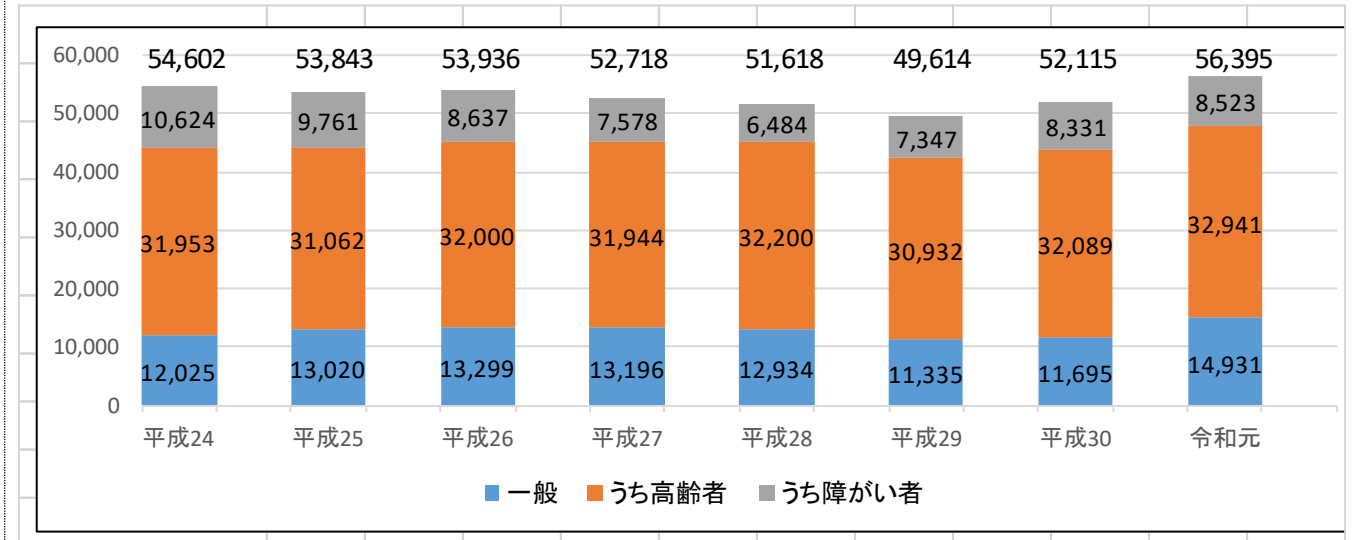
野洲市では JR 琵琶湖線が京阪神方面や県内外の各地域を結んでおり、利便性が高いことから、鉄道に対する市民の満足度は高くなっています。事業者と協力しながら、鉄道輸送力の向上や使いやすい駅周辺整備を進める必要があります。

鉄道利用者の増加に伴い、駅と市内各所を結ぶ公共交通の充実や駅前の渋滞緩和が課題となっています。

バス路線については、根強い自家用車の利用、人口減少や過疎化による採算性の低下に加え、高齢化等によるバス運転手不足により、事業者を主体とした交通サービスの確保・維持が困難になる地域が増加しており、持続的な生活交通手段の確保・維持が喫緊の課題となっています。交通空白地や不便地の解消を図るため、市によるコミュニティバスを運行していますが、利用ニーズに合わせた路線の見直しやサービス面の向上等、市民の利便性向上に向けた取り組みの継続が必要です。

自家用車に過度に頼ることなく、医療・福祉施設や商業施設等に公共交通でアクセスできる「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の構築においても、公共交通網の充実が必要となっています。

■野洲市コミュニティバス利用者数推移



(資料) バス輸送実績

取組方針

① 公共交通の利便性の向上
円滑に移動可能な地域社会の実現に向けて、利便性と持続可能性を両立した地域公共交通の整備を図ります。

主な取組

コミュニティバスの路線・運行本数の適正化、等

指標

指標	現状値	目標値 (5年後)	(指標のそのものや現状値、目標値等の解説)
①コミュニティバス利用者数	56,395 人	57,000 人	高齢化及び人口減少を見据え、同程度の利用者数を見込んだ。

関連する市の計画

- 野洲駅中心市街地整備計画
- 立地適正化計画